

地域密着型サービス評価の自己評価票

たてがみの郷07 かけとユニット

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念が「地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく」という目標になっている。それに基づいて事業展開している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念に基づき、事業においても長期・中期・短期・ユニット目標をたてて取り組んでいる。 又、会議等を利用して理念について学ぶ機会を設けている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	広報誌の活用・施設行事の時に事業内容を伝えている。推進会議を通して伝えるようにしている。家族に対しては、日々の話の中で伝えることを意識している。	○ 地域に向けての発信が不足している。今後は法人の委員会(広報委員会)・推進会議の活用を検討する。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域に対しては、自治会長への挨拶・公民館を通して声をかけてもらっている。職員も自分達から近所の人に声を掛けるようにしている。(近隣のお店の活用・散歩)	○ 法人の委員会活動(地域交流委員会)を今後も継続していく。近隣のお店の活用を増やす。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者本人にとっての地域行事には積極的に参加している。又、施設がある自治会への参加・小学校・保育所との交流をおこなっている。法人の委員会(地域交流委員会)による地域との交流事業も行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人の委員会(地域交流委員会)を通し、話し合いの場を持ち健康作り教室を開催している。	○	委員会活動の継続・運営推進会議の活用等を通じて、今後も取り組んでいく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年全職員で評価に取り組み、改善ヶ所については次年度の目標にあげ取り組んでいる。又、すぐ取り組める事は出来るだけ早く、取り組みをしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行い、いろいろな意見をもらっている。そこで出た内容をスタッフに伝え、取り入れられることを検討している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日々の相談・ケースの相談・グループホーム部会活動(事業所部会)を通し、全体的にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護・後見制度の研修に参加している。必要なケースについては、地域包括と連携を持って支援している。	○	これらの研修は特定の職員が参加し・伝達研修と言う形で他のスタッフには伝えているが、今後はその他の職員も参加出来る機会を設けていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の委員会(身体拘束委員会)の研修でスタッフは学ぶ機会を設けている。日々の中で「おかしい」と思ったことは、お互いにいえるよう、又苦情に取り上げ防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所・退所時に、本人・家族と話し合いをし同意をとっている。利用途中で契約を変更する場合は、家族会を開催し同意をとっている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>施設内にご意見箱を設置し意見を聞き、法人の委員会(苦情解決委員会)で話し合うようにしている。スタッフは、日々の関わりの中で聞いた意見・不満・苦情を本人に代わり意見を伝えるようにしている。又福祉相談員が時々入り、声を聞くようになっている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、本人の暮らしぶり・健康状態・担当スタッフの交代を伝えている。(金銭についてもその時に伝えている。)</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>施設内にご意見箱を設置し意見を聞き、法人の委員会(苦情解決委員会)で話し合うようにしている。苦情対応は、結果までを掲示している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議・主任会議・企画調整会議等で意見・提案を聞く機会を設けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>本人の状態に合わせて調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動については極力少なくしている。又適任者を配置するようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人事評価制度・職務遂行表・職能基準書を中心に段階別に育成できるようになっている。外部研修に参加する機会も確保しているし内部研修については、法人の委員会(研修委員会)を中心に計画的に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>施設内研修の充実(特に段階別に応じた研修)が必要</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>事業者連絡会のグループホーム部会で交流・勉強をする機会を持っている。県内のグループホーム連絡会への参加も積極的に行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は、日常的に職員に声をかけたり、職場に花を飾り環境作りに取り組んでいる。何かあった場合は、すぐに管理者に声をかけ対応させている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回の人事評価の実施(個人面談も含む)し、個人が向上心を持って働けるよう取り組んでいる。</p>	
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の面接時に話をしっかりと聞くようにしている。又、ケアマネから日々の様子・思いを聞くようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申し込み時・入居前の面接時に、話をしっかりと聞くようにしている又、ケアマネから日々の様子・思いを聞くようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時に、本人にとって一番良いと考えられるサービスを考え、他のサービスも含めて対応をする場合もある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたって、家族から本人に話をしてもらうことは伝えてはいるが、家族と相談し徐々に馴染めるような取り組みはできていない。	○	本人の状態に合わせて、今後は取り組んでいこう家族と相談していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に出かける機会をつくったり、不安や悩みを受け止め個別に外出したり、家族へも協力を呼びかけたりしているが、日々の生活の中で利用者がお客さんになっていることもある。	○	急須を軽い物にしたり、表示を作り、出来にくい方も自分で出来るよう環境を整える。 職員が待つことを意識し利用者が出来るところまでして頂く。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	個人の外出、外泊、通院等で協力を要請する事はあるが、行事や日常生活への参加はあまり呼びかけていない。	○	行事やイベントにも参加していただくように、家族会を開いたり手紙や電話で呼びかける。 行事を早めに計画し、毎月の手紙で家族へ参加を呼びかける。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	手紙を毎月送り、利用者の想いを代筆したり、利用者の書いた手紙を同封して伝えているが、関係が築けていない。	○	面会時に家族、本人、職員で話す機会を作り、本人の想いを伝えていく。 家族に本人の想いを理解していただくよう、カンファレンスにも参加してもらい関係を築いていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参り、自宅方面への外出、行事(祭り、公民館活動)への参加、知人を訪ねたりして、その方の地域との関係を大切にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合わない方同士の環境の配慮は行っている。 利用者同士の係わり合いが出来ている人もいるが、出来ない方への取り組みが不十分である。	○	自分で出来る環境を増やす事で利用者同士の関わりが増えるよう支援する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了時本人・家族対し、何かあればいつでも気軽に声をかけてもらいたいことを伝えている。また希望があれば再度申し込み通所の利用を聞くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プランの見直しの際、本人にはなしをきいたり、普段の会話の中で出てきた事は、皆で話し合うようにしている。しかし把握がうまくいっていない方もいる。	○	把握困難な方の生活をスタッフが皆でみて、ミーティングなどで情報を共有し、本人本位になるよう取り組む。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴を重点的にきいたり、本人や家族にきいたことを記録に落とし、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりが持っている情報が共有化されていないため、総合的に見れていない。 現在、利用者の日課表を作成し、一人ひとりの生活を見直している。	○	センター方式のシートを利用し、スタッフが個々に持っている情報を共有する。 家族にも昔の日課を教えてもらう。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要に応じて、家族との話し合いの場は持っているが、介護計画に反映するほどの意見やアイデアをもらえるような、コミュニケーションはとれていない。	○	毎月の手紙や、面会時などに、ケアの重要性を説明してケアへの参加を呼びかける。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	項目通りおこなっているし、流れも出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録から大切な事が漏れていることがあり、共有化出来ていない。 どれを記録に残していいかわからないという声が多く、現在小さなことでも全部記入するよう、話し合っており取り組んでいる。	○	勤務中コミュニケーションをとりあつて、皆が記録に残せるようにしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況でグループホームの通所・老人保健施設・デイケアも視野に入るように、話を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて、警察・民生委員・小学校・公民館等に協力の依頼をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・家族の希望、又本人の状態が他のサービスの対象となれば積極的に連絡をとるようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターのスタッフにも運営推進会議に入ってもらいすぐに連携が取れるようにしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は在宅からの主治医の継続、または本人・家族の希望に応じて決めている。主治医については1/2wの割合で往診にきてもらえる体制をとっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけは、気をつけているが、徹底出来ていない。個人情報に関する物など、片付け忘れていたり、現在声をかけ合うようにスタッフ間で意識している。	○ プライバシーについての勉強会をしていく。スタッフ間でお互いに注意しあい、出したらすぐ片付ける習慣をつけていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	思いや希望は、会話の中で出していただけるように働きかけているが、本人が納得されるまで、説明出来ていないときがある。	○ 本人の希望に沿うように個別援助計画に詳しくあげ、統一した支援をおこなっていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現在、一人ひとりの生活で、支援が必要なところに職員がつけるように、利用者の生活を見直している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時など、利用者が身だしなみに気をつけるように声かけをしたり、希望があれば行き着けの地域の理髪店などに出かけている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備、片付けしているが、渋々される方もおられ楽しみにつながっていない。	○ 準備、方付けなど、やる気の出るような声かけをしていく。(記録に残し共有化していく。)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望はきいているが、健康のことが優先して制限されている。	○ 本人、家族と相談して、本人の希望に沿うようなケアをしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンに沿って個々の時間に声かけ・誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりが入りたい時間にか入れるように、業務を見直している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりに応じて、入眠までの自由時間を過せるように支援したり、眠れない人は、無理に寝て貰わず、話をしたり、悩みを聞いたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行事や季節による祭りやイベントなどを行い参加されている。会話の中から「行きたい」と言われた所にも計画し参加している。 役割や楽しみ事が持てるよう取り組んでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の思い通りにお金を使われている方も少ない。	○	認知症があるので、自分で管理するのが難しい方もおられるが、自分で出来る方に関しては、家族とも相談して、希望に添える様にしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常生活品(洗剤・ティッシュ・茶碗)や、買い物など、希望があれば外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者からの希望があれば、一緒に計画し外出している。また、家族とも、食事や温泉に出掛けられている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方に対しては、自分で電話もして頂いている。手紙も希望があれば、はがきを購入し、一緒に書いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	知人・友人に対しては、訪問される機会も少なく、気軽に入れる工夫もされていない。	○	知人・友人に対してお茶会を開き、利用者と関わる時間を増やしていく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の委員会(身体拘束委員会)で研修を行い、勉強する機会を持つようになっている。日々のケアの中でも勉強する機会があるので都度スタッフで話し合いを行うようにしてケアに活かすようになっている。	○	研修会内容が全スタッフに伝わっていないので今後は、研修会への参加をもっと呼びかけるようにする。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ケア会議・ミーティング・スタッフ会議で鍵について話し合う機会を作った。日々鍵を掛けないケアは意識できている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安易に鍵をかけたり、付きりのケアに走らず、利用者のプライバシーには配慮した安全確認したケアをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品を取り除くのではなく、いつ・どういう状況で起こるのかを話し合い、ケアの必要な所をサポートするように努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ケアプランに載せ、一人ひとりの状況にあわせ事故が起こらないように取り組んでいる。また事故がおきた場合は、再発しないように報告書に記入し法人の委員会(リスクマネジメント委員会)で話し合いを行っている。	○	再発防止の取り組みは行っているが、スタッフの意識付けの強化を行う事が必要。知識習得の為の勉強会を行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当のマニュアルはあるが、訓練は行っていない。(消防署からの研修が1/1年あり)初期対応については、スタッフ会議を利用し、ロールプレイを行っている。	○	毎月あるスタッフ会議を利用し、応急手当の勉強をおこなう
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策については、法人の委員会(防火防災委員会)で取り組んでいる。しかし、それが日常的に出来るようになっておらず、又地域の方と一緒に訓練は出来ていない。	○	防災等、災害訓練への地域住民参加を委員会をとおして行っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	身体状況が変化し、考えられるリスクについては家族に伝え、どのようにしたらよいか相談するようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段から、体調変化を記録に残し、異変があれば、上司に報告し、病院などへも連絡している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や用法、用量など把握できておらず、服薬の支援で不十分な所がある。 現在チェック表を作り、服薬確認をおこなっている。	○	チェック表で毎日、きちんと服薬確認をしていく。 薬の目的、副作用、用法、用量を表にし、分かり易くしておく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質を取り入れた食材や、おやつ作りをしている。オリゴ糖や、乳製品、寒天など一人ひとりに合った便秘解消法を実施している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	介助の方に対しては、出来ているが、声かけだけの方については確認が徹底できていない為、汚れている事がある。	○	どこまでのサポートで、口腔ケアが自分で出来るのかを個々に把握して、支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えたり、水分が摂りやすいように、一人ひとりの好みや、習慣に合わせた支援に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人の委員会(感染対策予防委員会)でマニュアルを作成し予防・対応について、取り組みを決めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日買い物に出かけている。食器類に関しては、施設の厨房に1/1wの割合で消毒してもらっている。布巾などは、毎日消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ドアが重く、出入りがしにくい。また、家庭的な玄関ではない為、気軽に入れない。	○	玄関のドアはなるべく開けておき、入りやすい環境にしておく。グループホームの玄関だとわかりやすくしておく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音・光が直接入らないように家具の配置を工夫している。季節感に関しては出そうと努力しているが、浴室など出来ていない箇所もある。	○	全員で使う箇所(廊下、食堂、居間、浴室など)は、利用者とは相談し、季節感のあるレイアウトを決めていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	検討して模様替えをしているが、思い思いに過ごせるようなスペースになっていない。 また、全員にとって居心地の良い場所になっていない。	○	整理、整頓を行い、環境の見直しも行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や必要に応じて、家族にも協力して持って来て貰ってはいるが、本人が居心地良く過ごせる空間になっていない利用者もいる。	○	家族に、家で使い慣れた物を持って来て貰ったり、居心地が良くなるように、出来ない方について整理、整頓のサポートをする。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	においや空気よどみに気を付け、こまめに換気しているが、冷暖房は職員側の判断で行っている時がある。	○	冷暖房は、利用者の状態や体調、外気温を考慮し行うようにする。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境には配慮しているが、身体機能を活かすような工夫はされていない。	○	椅子やテーブルの高さは、個人に合わせて少しずつ変えている。 台所に台を置くなどの工夫を行っていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	アセスメントを行い、一人ひとりの出来る事を大切にかかわりを持つように意識している。しかしまだ利用者に対する配慮がなされていないと思えるところがある。	○	絵や文字で分かりやすく張り紙をしたり、声の大きさ話し方などにも配慮していく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	散歩したり、芝生でお茶を飲みながら談話できるスペースになっている。花などを植える計画も進んでいる。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
		○	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

かけとユニットでは、利用者一人ひとりの生活という点に重点をおいている。施設の決めた時間で、利用者に動いてもらうのではなく、利用者9人のバラバラの生活の中で出来にくいところをどこまでサポートしていけるか、皆で考え取り組んでいる。また、施設の中でケアが完結しないよう、ケアや、ニーズに沿って外出、外泊をし、家族にも協力をお願いしている。